

町史だより

西原のいとはばくその①

ソグワチ(正月)は二度来る？

新しい年を迎え、ひと月がたちました。みなさんは、どんなスタートを過ごしたのでしょうか？

新暦の正月は終わりましたが、今月十八日は、旧暦の正月です。糸満や久高島などの地域では、これから迎える旧正月の行事が行われます。西原でも以前は旧正月にあわせていましたが、今では新正月を祝うところがほとんどです。あなたの家はどちらかな？

今回は、正月行事を取り上げてみましょう。

1 ワカミジ(若水)汲み

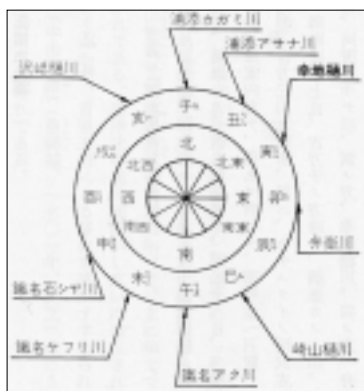
健康と幸せを願うワカミジ(若水)汲みは子どもたちの仕事です。

元日の朝早くカー(井戸)から汲んだ水は、ヒヌカン(火の神)、ブチダン(仏壇)、トウク(床の間)などに供えられま

した。字によっては、若水を汲むカーが決まっていたようです。棚原はヒージャーガ

一(樋川)、小波津ではティラサガー、桃原のワクカーなどがあります。

『琉球国由来記』(十七世紀編)によると、正月には、幸地のヒージャーガーから水を汲み、琉球国王に献上したと記されています。以前、かけひから流れていたヒージャーガーは、今では改修されすっかり姿を変えています。



▲首里城からみて吉方にあるとされたカーの位置図

樋川 湧き水をかけひで引いた井泉。

2 お供えもの

今でこそ、きらびやかな飾り物や、豪華なごちそうが用意されますが、以前は各家でマチとダキ(松と竹)を組んだ

若木を、門の両側やトウクなどに飾っていました。

そのほか、白、黄、赤の三色の紙を重ねた上に、ムチ(餅)やクニブ(みかん)、クープ(昆布)、タン(木炭)を載せた飾り物をヒヌカン、ブチダン、トウクに供えたといえます。三色の紙の色には意味があるといいますが、みなさんはご存知ですか？

正月の飾り物について、おめでたい席で歌われる「かぎやで風」の歌詞にも使われています。

あらたま(新玉)ぬ年に たん(炭)とくぶ(昆布)かぎ(飾)てい
くるる(心)からしがた(姿) 若くなゆき

正月の料理では、本土と沖縄には違いが見られます。おとそのかわりに泡盛(雑煮)はムチ(餅)のかわりに豚肉の入った汁を食べますよね。

しかし、沖縄のなかでも違いがみられるようです。神々の島・久高島では、正月三日間は、豚肉を食することがタブーとされ、八重山では、豚肉よりも牛肉を好む傾向があり、正月には牛肉のゾーニ(雑煮)がふるまわれます。

また、八重山では花米を入れた重箱

にコウダテ(甲立)と呼ばれる飾り紙が供えられ、トウクを華やかに飾ります。そして家族で正月のあいさつを行う際、クープとマース(塩)、盃を交わす慣わしがみられるところもあります。



▲甲立が華やかな重箱

3 ハチウガミ(初拝み)

年頭にあたり、字の役員や有志らによつて、字内のウタキ(御嶽)やカーをまわり、字のみんなの健康と繁栄を願うハチウガミ(初拝み) ハチウビー(初水撫で)・ハチウガン(初御願)ともいう)が行われていました。

みなさんは、二度目の正月をどのように迎えるのでしょうか？

参考文献『西原町史』第四巻・資料編三西原の民俗／『石垣市史 民俗編』『おきなわの祭り』／『沖縄大百科事典』